



発行 2015年5月10日

認定NPO法人 アジア教育友好協会 Asian Education and Friendship Association 本部:7105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F TEL 03(6426)0720/FAX 03(6426)0721 Email:asia@nippon-aefa.org



先生が変わると、子供が変わり、学校が変わる

~ラオスの山奥の、熱血先生ものがたり ナムゲルン先生~





ナムゲルン・ペッシカム先生は、ラオスにおけるAEFA支援で、10年間教員を務める「初代!熱血先生」です。当初は正式な教員資格を持っておらず、ボランティア教員として、自分の小屋に子供たちを寄宿させながら読み書きを教えていました。その後、教員養成短大で正式な資格を取得。現在は、自身の故郷である「パシア小学校」で校長として活躍しています。

パシア村はベトナム国境近くの山岳地帯にあり、ベトナム戦争時はホーチミン・ルートが通っていた地域。北爆のあおりを受け、激しい爆撃が続き、学校の裏には未だに大きなクレーターが8つ残ります。当時を知る人は、「物資を落とすことで、この村を味方にしようという作戦だったのかもしれませんが、1週間前は空から食糧が降ってきたのに、今日は爆弾が落ちてきた!・・ということがありましたよ。何がなんだかわからず、必死で逃げ惑いました。」と振り返ります。戦争の傷跡は、今も村人の心の底に悲しく残っています。「本当に乗り切るためには、村人が心から未来に挑戦していくには、教育しか無い・・・」。

ナムゲルン先生は、その思いから故郷に戻り、決意新たに日々子供達と接しています。

パシア小は、村の就学年齢児童(6-10歳)が96人のところ、遅学(貧困や家庭事情により就学年齢で入学できず、学校に通い始めたのが遅いこと)の子供や幼稚園児も含め、現在121名が学んでいます。教員は2名。現在の校舎は、2003年にVFI(国際NGO)と村人たちの協力により作られたもの。3教室で、幼稚園児と小学校1~5年生が複式学級で学んでいます。十分な教育環境とはいえませんが、ナムゲルン先生が赴任してから、日本との交流や新しい活動が行われ、子供たちの表情は明るくなりました。学ぶことにより、世界が広がり、将来の夢を描けるようになってきたからです。

ひとこと 岩清水、湧きて帰らず・・黒子に徹する

私が55年前(高校時代)の日記に、感銘を受けた堀口大学の詩が書き込んであります。次のような詩です。(一部省略)

苔の下茂る葉のかげ 岩清水清らかに湧く・・ いつの代の古へよりか 岩清水湧きて帰らず 行く末の流れの果ては 土深く潜りて見えね・・

名さえなき旅路の果し 行過ぐる麓の里に 村人の井戸を掘りたり この水のいわれも知らで 村人よ心を洗え この水の密やかなれど この水の言挙げせねど この水の澄みて照りたり

私は、この水のようになりたいと思いました。社会の役 に立つ地下水のように、この井戸水のようになりたいと 思いました。心の奥深くには、水がシーンと静まり返って光っているような、そのような心を持つ人になりたいと思いました。何時か誰かに汲み上げられて飲まれるまで、控え目で自己主張しないで、それでいて苛立ちもせず、じっと時が満ちるのを待てるような、そのような人間になりたいと思いました。

AEFAは今年、11事業年度を迎えました。言挙げせず、「黒子に徹して頑張ろう」を合言葉に、これまで11年間頑張ってきました。時満ちて今、AEFAの井戸水を飲んで下さっている多くの人たちがいます。有難いことです。AEFAのこれからの10年。この井戸水の如く、シンと静まり返って澄み切って輝いていたいものです。 (理事長 谷川 洋)

校舎は古くなっても、先生は古びない。心の学校を建てよう

ナムゲルン先生は、前任校であるパチュドン小(AEFA建設 第1校目)時代も、新しいアイディアをどんどん出して、周りの先生を驚かせていたそう。安い給与のうえ遅配も多く、特に山間部では学習環境も十分でなく、ともすればやる気をなくしてしまう先生も多いのが現状。でも、ナムゲルン先生は「もっと学校をよくするためには。子供のためになること、できることをやっていこう。」と、歩みを止めませんでした。例えば、川の渡渉が必要なため雨季は学校に来られなくなってしまう村の子供のため、その村に泊まり込み、「期間限定で雨の降る間だけ分校」を開いたり。寮生も多く学ぶパチュドン校で、学校菜園や養魚、ヤギの飼育だけでなく、きのこ栽培活動など、新しいスキルが必要な農業にトライしたり。最初のうちは「お給料が上がるわけでもないのに・・」と否定的だった先生もいましたが、一方で「新しいことを学べる」「街の学校ではできない経験ができる」と、評判を呼び、街から希望して赴任してくる先生も。

パチュドン小学校は、建設後11年が経過していますが、"よい学校にしたい"という思いと結束力のある先生方の力で、今では幼稚園児から中学生までが学ぶことのできる山岳地帯の基幹校として成長を続けています。新年度には、高校(後期中等教育課程)も新設される予定です。

ナムゲルン先生の今の夢は、生徒たちを修学旅行に連れて行くこと。村から出たこともない子供たちに新しい世界を見せて、世の中を広げたり、将来の夢や目標をもったり、自信をつけさせたいのだそうです。



ヤギ小屋や、柵も生徒たちと手作り



教室不足のため、高床式の寮の床下で学ぶ

一方、パチュドン村には、先年ベトナム・ダナン市まで通じる道路が開通。交通インフラが飛躍的に改善されました。中には、これまでの自給自足の静かな生活を求め、より山奥へ移転していく村もあるそうです。新しく入ってくるものは、いいことばかりではありません。お酒やドラッグ、村人をだまして搾取する商人や、人身売買のブローカーなど、子供たちが接する環境は

劇的に変化しています。まず、「自分の身を守る」ためには、何よりも教育 が必要です。

パチュドン小中学校出身でナムゲルン先生の教え子「サバン君」(写真下)は、AEFA第2期奨学生。2014年6月に教員養成短大を修了し、現在は山岳地帯タオイ郡パトゥム小学校で教えています。生まれ故郷のパチュドンから、バイクで約2時間。急な山道を越え、川を渡ってゆく小さな

学校です。



学んだことを活かし、タオイ族 の言葉しか分からない1年生 にラオス語と両方を取り入れた 教材を作り教えています。

このように、ラオスの山奥の 学校では、熱血先生が次世代 の先生を育て、生徒を生み出 していく。学校が、人間を育て る教育の要の場となっていく。 AEFAならではのプロジェクト ~「学校を生み、育て、見守 る」の循環を増やしていきたい と考えています。





教育こそ、アジアの平和に対する最大の貢献

3月、ラオス山間部の学校を訪れた藤原和博氏。東京都で義務教育初の民間人校長に就任し、現場から様々な点を改革してきた。様々な日本のNGO活動の現場を実際に訪れ、感じることでその意義を確かめたいと、AEFA出張に同行。4月より「日経BPオンライン」藤原和博の「学校をつくろう!inラオス」にて、訪問の様子を連載している。

「標準語を話せない子どもたちに「教育」ができること」

この国の部族はそれぞれの方言を話すから、ラオスの標準語を教えることから学校教育は始まる。日本でも、かつて各地にはお互い通じないほどの強い方言があった。沖縄や鹿児島の人が本気で方言を喋ったら、全く分からないし、東北弁だってハンパない。

だから、長い時間をかけて標準語を共通語として教育していったのだ。その 苦労は、いまからもう一度、英語を公用語にしようとするようなものだったは ずだ。

逆に、ラオスでは、方言を話せない先生が教えても、土地の子は標準語を聴き取れないから、学習効率が低くなる。方言を話せる先生を育てて故郷の学校に戻してやる意義がここにある。社会がこういう段階にある場合には、とにかく教育の役割は大きい。

まず言葉を共通にして知識を学び、計算の仕方を覚えなければならない。村を閉ざして自給自足で鎖国すれば、昔どおりの幸せが維持されるかというと、そうではないからだ。道路で結ばれ、交易が始まり、社会が開かれて貨幣経済が入ってくると、もはや部族内だけの物々交換では生活が成り立たない。

だから、学習の過程は、まさに子どもたちに考える自由を与え、選択の幅を広げることになる。ある村の老婆は、私たちに「自分たちは字が読めないし書けない。でも、次の世代(Next Generation)には、その教育と希望が必要だ」と語った。(日経ビジネスオンライン 2015/4/16掲載分より抜粋)http://business.nikkeibp.co.jp/article/person/20150324/279098/?rt=nocnt



パシア小学校(1面参照)から、 日本への交流作品を預かった藤原 氏。貝殻で「こんにちは」と記さ れている。中には、手織りの布。



「We Need You ~ だれかが、あなたを必要としている」 ラオスNGOによる授業

2014年10月、ラオスにおけるパートナーNGO「ACD」の代表、ノンさん(ブアラペ・チュンタボン)とニャイさん(チャンタラ・ブッタボン)さんを招聘、日本の交流校を訪問しました。学校菜園で大根を育て、その売上を交流校のトンコー小学校に寄付している長野市立大岡小では、寄金が現地で画材や教材となり活用されている様子や、児童からのビデオレターを紹介。「ワンコイン・スクールプロジェクト」に取り組む東京都武蔵村山市の小学校では、先生がお母さん役、目隠しをした児童3人が子供役に扮してアクティビティを行いました。スタート地点から、ハンディキャップを乗り越えて無事ゴールまでたどり着くよう、お互いに声をかけあい、助け合いながら進む「We Need You」というアクティビティを体験。

~たとえ今、あなたがつらい状況にあっても~

「あなたのすぐ近くに、もっと大変な人がいるかもしれないこと、あなたを必要としている人がいるかもしれないことを、忘れないでください」

(ヤルーム バンコーン ガイガイジャオ ミ シーヴィッ ニャーク クアジャオ)



NGO「ACD」のニャイさん(左) ノンさん(右)

とのメッセージを、ラオス語でノンさんが伝えました。ゲーム感覚でキャーキャー歓声も上がっていましたが、メッセージを聞いてから振り返りの時間では、「今のはゲームだったけど、もしも本当の、現実だったら・・・」「自分ひとりのことだけじゃなくて、周りで困っている人がいるならば、声をかけたい」と子供たちは様々に感じたようです。ニャイさんからは、「わたしは子供の頃、事情があって両親と離れて育ちました。毎日寂しくて、今日こそお父さん、お母さんが迎えに来てくれるかも・・と待っていましたが、期待はいつも外れてばかり。だから、自分が変わろうと思いました。周りの状況は変えられなくても、自分自身は変えることができる。勉強して、強くなろうと思いました。」と自分の子供時代の経験からメッセージを伝えました。



「わたしたちは、友達です。友達は、友達を助けるものです」

タイと福島の中学生の心のつながり



これは、福島県いわき市の中学生から寄せられた「震災の時、タ つからも支援<mark>を頂きま</mark>」た、募金をするきっかけけどんかことです

イからも支援を頂きました。募金をするきっかけはどんなことですか?」との質問への答えです。(2014年12月21日 いわき生徒会長サミット実践報告会にて)

タイ北部山岳地帯にある、山岳民族カレン族の生徒が通う学校でも、募金活動が行われました。

そのお返しに・・と、2012年4月から3年間にわたり、タイ・ファイコン校への支援を継続してきた、いわき市の中学生。山奥の村に、地域初となる悲願の中学校(3教室)校舎が完成。小学校卒業後は村で畑仕事をしていた子供たちが、学校に戻ってきました。

学校建設資金の500万円は、働いていない中学生にとっては、とても高いハードルでした。しかし、みんなの力を合わせることで、自分たちだけの力でタイに学校をつくることができました。中学への進学が可能になる・・という、タイの山奥の村の現実を変える力が、あることを実感したのです。

「いわき生徒会長サミット」のメンバーは、各校で支援活動を行うにあたり全校生徒の理解を得るために、苦労を重ねたメンバーもいたことでしょう。また、「がんばりカード運動」(単なる募金ではなく、自分で目標を設定。達成したときにおこづかいから寄金)に取り組んだ生徒にとっては、「顔を見たこともない、知らない人のために」頑張りを継続する大変さもあったことでしょう。しかし、「自分が立てた目標に対して、自然に頑張ったり努力をした。そこに、意味があると思います」「普通の募金ではなく、自分が頑張った結果としての募金なので、寄金の意味が違う。」と活動を通しての感想を述べていました。

そんないわきの中学生に、感謝の気持ちを直接伝えるため、 2014年12月、タイ・ファイコン中学より、代表生徒2名を招聘。交流 会と報告会に参加しました。

ジャヌ・ノーディー 18歳 ファイコン中学校3年生

9歳のとき、小学校に入学。お母さんはタイ語が話せません。3人兄弟の末っ子で、兄2人は学校に行ったことがありません。小学校6年生の時、親から家の仕事(農作業)を手伝うため学校をやめてほしいといわれましたが、家を抜け出して約6kmはなれた学校で寮生活を送りました。

まず、皆さんへ震災へのお見舞いを申し上げます。様子を知り、とても心が痛みます。そのような中、ぼくたちの学校を支援してくれてありがとうございます。ぼくたちの村は、高い山の中にあり、木がたくさん生えています。平地は少ししかなくて、山の斜面に点々と家があります。田んぼや畑がたくさんあり、自給自足の生活を送っています。買い物がしたくても、お金がないとか、貧しいけれど、村がいやだとか思ったことはありません。それは、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんのいる村だからです。



タイの中学生たちも、「会ったこともないぼくたちのために、激励したり歓迎したり、準備してくれていたことに感動しました」「学校ができて一番うれしいことは、勉強できること。みなさんがいなければ、勉強することもできなかった。みなさんとのつながりがなければ、このように実際に出会うこともなかった。これからも、交流を大切にしたい」と感謝の言葉を伝えました。

「観光物産センターら・ら・ミュウ」で実際に地震と津波の被災状況を感じ、そのような中、支援をしてくれたことへの感謝の気持ちを新たにしていました。また、日本で初めての「地震」を経験。タイ北部でも、最近地震が増えているそうですが、誰もどう行動したらよいかを知らないので、ただ呆然としているだけだったそうです。日本の防災教育から学びたい、との声もあがりました。

◆助成:国際交流基金、猪狩仁、飯舘村、菅野典雄、伊藤美智子(敬称略)

ロナンド・マリガホムアン 16歳、ファイコン中学校2年生

4人兄弟の末っ子。9歳の時、小 学校に入学。

学校に行けるようになるまで

は、毎日家の畑仕事の手伝いをしていて、同じことのくりか えしでした。友達もいないし、話し相手もいないし、タイ語も できないし、毎朝起きると、かなしい気持ちでした。

学校に行けるようになって、畑の手伝いができないのは親 に申し訳ないけれど、毎朝起きたら「学校に行けるんだ!」



と、うれしくて、楽しくて、生きがいになりました。もっとたく さん勉強して、皆に タイ語を教えてあげ たいです。

同行した先生の声

クリッサン ダガン・ジマリ先生 ファイコン小中学校教師

「2人のように、家が貧しいことが原 因で、両親が学校に通わせることに 賛成しない(教育への理解がない) 家はたくさんあります。そういうとき

は、家庭訪問して親を説得しています。

寮に入っている子供が病気になると、隔離して、先生がつ きっきりで看病します。もし大きな病気だったら、バイクに 乗せて山を下り、病院に行きます。親たちは、たとえ子供 が病気になっても車もバイクもありませんし、病院がどこに あるのか、そもそも病院に行ってもタイ語がわからないで すから。どんなに心配でも、何もすることができないので す。ですから、それは先生の仕事なのです。今回日本に訪 問できたことで、皆さんのおもてなしの心に感激しました。 皆さんのご支援で、必ずタイ語をきちんと話せるように教 育していきます。」



12/17は、福島県飯舘中学校を訪問。あたたかく迎え て下さった全校105名の皆さんに、自然豊かな故郷ファ イコンの村や学校生活についてお話しました。

3年生の英語のクラスにも参加。カレン族の2人にとっ て英語は、公用語タイ語に次ぐ第3の言語です。タイ語 の発音も不確かで、来日当初は緊張のあまり涙ぐむ場 面もありましたが、授業ではビデオ教材を使ったロー

ルプレイや、「タイ正 月」のトピックスで盛り 上がりました。

ジャヌ君(写真左)は、 今年3月に中学を卒業。 奨学金を得て、高等専門 学校に進学します。将来 は大学に進みたい・・と 新たな夢が。





モザイクアートありかとう!

モザイクアート(いわき市中学生たち の笑顔の写真を貼り合わせたもの)が いわき市中学校からファイコン中学に 🏂 贈呈され、校舎内にビニールカバーを かけ、大事に飾られています。

> いわき市中学校の皆さん、いつか ファイコン村に遊びにきてね~!





タイ北部チェンマイ県 カラヤニワッタナ中学校



山岳民族の伝統を守るこ とをモットーに、カレン 族のための、カレン族の 学校です。先生と生徒の 想いが込められ、生徒た ちが自分の学校だと誇り を持てるような学校にな りました。鉄筋ではなく 馴染み深い木材であたた かみのある教室となり 電気も通るので夜間も使 用できています。



木材の良さ

New Staff が加わりました!

はじめまして、山川香です!4月から新し ディネーターとして勤務させていただいて よろしくお願いします!

将来の夢:自給自足 好きなもの:飛行機

第9回AEFAフォーラム 「授業つくりを通して、先生も子供も変わる」 「今までにない、楽しく新しい国際交流授業を一緒に考え

ませんか?」をテーマに、12/26、30名が集いました。

第一部:藤原和博氏(3P参照)の講話は大変刺激的で、参 加者はアタマをフル稼働。これからの日本の教育に大切な、 「情報編集力・発信力~つなげる力」を

第二部:実践報告会。第三部:ワークショップでは、先生方 がグループに分かれ、「自分が実践してみたい授業」を提案 しました。

「同じ地球に生きる人間として、"違い"を強調する のではなく、理解や交流が大事。そして、教員自らが 感動しなければ、子供に伝わるはずがない。それに は、教員もアジアに浸る何ものにも替え難い経験が大 事」 (武蔵村山市第八小/太田誠一先生) 「交流に、地 域の方や保護者が積極的に関わっていることが印象的 だった。エネルギッシュな先生ばかりで、AEFAの活動 を通して子供達を育てていきたいという強い思いを感 じた。」(武蔵村山市第七小/渡辺大樹先生)「授業を 通して子供を変える力を頂いたように感じました。若 い先生方と一緒に考える、作る、貴重な機会でした。 授業つくりを通して、自分も子供も変わるための意欲 を頂いた思いです」(港区御田小/油先生)

~ 2014年 建設校一覧 ~

	学校名	分校名	国名	民族	児童数	教室∙設備	支援者(敬称略)
1	グエンフエ小		ベトナム	キン族	230	4教室+WC	エルセラーン1%クラブ
2	第4社小	バウ分校	ベトナム	カトゥー族	48	3教室+WC+井戸	日本財団
3	チューオム中		ベトナム	カトゥー族	189	一部校舎+井戸	日本財団
4	レロイ小	第二分校	ベトナム	カヨン族	113	5教室+WC+井戸	エルセラーン1%クラブ
5	チュンハ小	リエンソン A分校	ベトナム	ザオ族・ヌイー族	180	3教室+WC+井戸	エルセラーン1%クラブ
6	チュンハ小	リエンソン B分校	ベトナム	ザオ族・ヌイー族	180	3教室	彦建設(株)+日本財団
7	リノマンランハ	リエンフォン 分校	ベトナム	モン族	103	3教室+3教室(修復)+WC	エルセラーン1%クラブ
8	タンホアB小		ベトナム	クメール族・ キン族	254	10教室+WC+校庭	草の根資金+(株)ディ アーズ・ブレイン
9	ナサイスアイ小 (現ナサイプーカム)		ラオス	スアイ族	72	3教室+教師室+WC+ 井戸	㈱菊岡夫婦社
10	パチュドン女子寮 (さくらハウス)		ラオス	タオイ族	295	女子寮	髙山秀子
11	ファイラ中		ラオス	パコ族・カトゥ族・ タオイ族	45	2教室+教師室+WC+井戸	シルバーアーチ基金
12	ナボーン中		ラオス	スアイ族、低地 ラオ族	168	4教室、二重屋根+WC+ 井戸	ダイリキ(株)
13	ファイラ 小		ラオス	パコ族・カトゥ族・ タオイ族	113	二重屋根、3教室+教師室+ WC+井戸	金井昭雄
14	ヴァングア 小		ラオス	スアイ族、カタン族、 タオイ族、低地ラオ族	62	二重屋根、3教室+教師室+ WC+井戸	金井昭雄
15	ハーコーナム 小		ラオス	ンゲ族	83	3教室+教師室+WC+井戸	進藤鉄男
16	ブオンナム女子寮		ラオス	タオイ族	194	女子寮	中舛 S.I.
17	ホイヘー 小		ラオス	低地ラオ族	285	2教室+教師室+WC+井戸	エルセラーン1%クラブ
	パークアイ 小		ラオス	低地ラオ族	199	3教室+修復+WC+井戸	エルセラーン1%クラブ
19	カラヤニワッタナ 中学校		タイ	カレン族	124	3教室、カレン族スタイル	㈱オーイズミダイニング
20	バルカルリアン小 中学校		ネパール		268	6教室(2階建)	(株)ディアーズ・ブレイン

()内は支援者名、敬称略

タイ(1校)



カラヤニワッタナ中学校 ((株)オーイズミダイニング゛)





グエンフエ小学校 (エルセラーン1%クラブ)



第4社小学校バウ分校 (日本財団)



チューオム中学校 (日本財団)



レロイ小学校第二分校 (エルセラーン1%クラブ)



チュンハ小学校リエンソンA分校 (エルセラーン1%クラブ)



チュンハ小学校リエンソンB分校 (彦建設(株)+日本財団)



タンホアB小学校 (草の根資金+ (株)ディアーズ・ブレイン)



ヴァンラン小学校リエンフォン分校 (エルセラーン1%クラブ)



ブオンナム女子寮 (中舛 S.I.)

◆ラオス(10校)◆



ナサイスアイ小学校(現ナサイプ―カム) (㈱菊岡夫婦社)



パチュドン女子寮(さくらハウス) (髙山秀子)



ナボーン中学校 (ダイリキ(株))



ファイラ中学校 (シルバーアーチ基金)



ファイラ小学校 (金井昭雄)



ヴァングア小学校 (金井昭雄)



ハーコーナム小学校 (進藤鉄男)



ホイヘー小学校 (エルセラーン1%クラブ)



パークアイ小学校 (エルセラーン1%クラブ)

アジアの友だちに届け!日本各地からの交流作品の数々

AEFAが橋渡しをしながら、ベトナム・ラオスとの交流を進めている日本国内の学校は、現在40校ほどです。3月のベトナム訪問に合わせて、素晴らしい思いのこもった作品が寄せられました。そのいくつかを紹介します。





交流校のホアバック小学校は、ベトナム中部ダナン市内から1時間ちょっとのなだらかな山奥にある、可愛い小さな学校です。少数民族カトゥ族の村から通う児童が79人、先生方11人が明るく元気に学校生活を送っています。2011年には全校生47人でしたので、小さな村の学校としては、すごい増え方です。さっそくわらじを履いて歩き出す子供、東京でボランティアの方たちがベトナム語に翻訳してくれた自己紹介カードを、声を出して読み始める子供・・・。コインセットは、グエン・トー校長先生に手渡しました。5年生担任の先生が、折り紙を全学級に配りに行ってくれました。また、お返しにと八川小学校のために、歌を歌ったり、ダンスを見せてくれました。 帰り際に5年生担任の先生が、「今日は、とても感動しました。」「八川小学校に、お手紙や作品を送るにはどうすればできますか?」と真剣に聞きにやってきました。これからの交流が、とても楽しみな学校です。

埼玉県植水小学校 からの作品に喜ぶ チャビン省フーカンB 小学校の子どもた ち。海や山をテーマ にした版画、絵、習 字、そして、文房具の プレゼント。版画や



絵、そして、習字などの作品を届けました。この学校に8年間勤めるトラン・バー・リン校長先生(下/右端)に、植水小からの支援の文房具類をお渡ししました。校長先生から、「とても心のこもった大切なプレゼントに感謝します。大切に使わせます。」と、お礼の言葉がありました。お預かりした交流作品を手持ちで運んでいるので、お届けできる量にも限界もありますが、その言葉に一挙に疲れも癒された思いでした。写真(下/左端)は、教育局のフォーさんです。リン校長とフォーさんは、2007年春に日本の交流校を訪問されたこともある方々です。日本との交流をとても喜び、懐かしがってくださいました。



鎌倉学園 ベトナムボランティア・ツアー



3月のベトナムは、1年で最も暑い「暑期」に向かう時期。南国の日射しが照りつけ、じっとしているだけで汗が滝のように流れます。

春休みを利用して、鎌倉学園中学校・高等学校の生徒19名が、南部チャビン省フートゥー B 小学校の支援・交流ボランティアツアーを2日間にわたり、行いました。「3/26、気温37度。生徒たちも熱かった!グラウンドに色をつけたセメントを入れていく作業とフェンスのペンキ塗りをしました。炎天下の作業でしたが皆、一生懸命に取り組んでいました。」(同校FBより)ペンキ塗りは、2mごとに色を変えて。校庭の花植えは、村人に教えてもらいながら、夢中になって取り組みました。見違えるようにきれいになった校庭に、フートゥー B の子供たちはビックリ!日本の生徒たちは疲れも見せず、達成感と充実感にあふれた表情です。翌日は、支援プログラムの中心である、ゴミの分別・収集についての発表と交流会。3グループに分かれて、工夫を凝らしたプレゼンを行いました。「生徒たちには、多くの人の支えがあって今の自分があること、そして自分も誰かを支えることができることを、今回の体験で少しでも感じてくれたらうれしいです。」(引率教師のひとり、佐藤洋平先生談)。



ベトナム チャビン省ティウカン郡ロントイ社 ロントイB小学校ディンフータン分校(2013年プロジェクト)

生徒たちは、明るくて、涼しくて、静かで、広々とした新校舎に大満足です。勉強にも集中して取り組んでいます。1学期の成績でレベル5以上の生徒も増え、全校児童120人中110人が平均点を上回りました。最高学年5年生のニャウン君は「学校が涼しいから、勉強に集中できます。」成績も優秀という彼は、将来はお医者さんになりたいそうです。同じく5年生、ヴィさんは「トイレがとてもきれいなのが、とっても嬉しいです。勉強がんばります。」ヴィさんは学校の先生になることが夢だそうです。子どもたちは、とても真剣なまなざしで授業に集中していました。

「大きくなったら、なんに なる?」 学校に行ったら、夢を かなえられるようになるんだよ。

2015年3月から4月にかけて、ベトナム視察を行いました。建設校の訪問は、南部ホーチミンから車で2時間ほど南西に入ったヴィンロン省タムビン郡の2006年建築の「トゥオンロックB小学校」をスタートに、南部の8校。中部は、ダナン市北西部のクアンナム省の学校11校を巡回し、それぞれの学校が建築後どのように使われ、どのような問題を抱えているかなどを聴取する目的と、それぞれの学校が交流を進めている日本の学校との交流活動のために訪問しました。





ヴィさん

ニャウン君



建設校視察・交流校訪問たより



中部クアンナム省レロイ小学校。静岡県袋井市の支援により新校舎3教室を建設。先生13名、生徒数113名の学校です。袋井市高南小学校と浅羽南小学校からの作品を紹介しました。ファン・ヴァ

ン・マン校長先生は、「この校舎をこれからもずっときれいに、いい状態で保ち、教育の環境を整え、より質の高い教育を目指していきたいと思います。袋井市の皆さん、この新しい校舎を建設して下さり、本当にありがとうございます。交流作品を見て、日本に友達がいるということが実感できました。」と語っていました。

お母さんと、10ヶ月の妹と3人暮らしの4年生のムン(女子)さんは、毎朝5時に起きるそうです。(時計がないので、正確な

時間はわかりませんが)「朝ご飯はお母さんが 作りますが、少ししか食べるものがなく、食べら れない日もあります。夕飯も食べられないことも あります。お肉を食べる機会はほとんどありま せん。将来は、学校の先生になりたいです。」



*

フートューB小 学校オートロン 分校。「アジア の子供たちに 学校をつくる議 員の会」の支援 で、5教室と教 員室とトイレを



* 建築した学校です。106名の子どもたちが学べる新しい校舎 * が完成。「おかげで、子供たちの学習への興味・関心が増 し、先生方も授業に積極的になりました。」と、トー・ミン・ * チー校長先生。また、「少数民族であるクメール族の児童に * とって、公用語であるベトナム語を『聞く、話す、読む、書く』 * という指導はとても重要です。図書室があれば、さらに子供 * の世界が広がり、読み書きの力がつくと期待しています。こ * のことにより、さらに教育の質を向上させることができます。」 * とり人の先生方は熱心に話してくださいました。この学校は、 東京都港区芝小学校の交流校です。3年生の学級を訪問、 * 芝小の友達からの作品を紹介すると、児童たちはとても嬉し そうに見入っていました。

~アジアの未来を創る子供を育むために~ 平成26年度 AEFA出前授業・講演会等(106校・116回)



● 実顔って、いっしょだね! ーAEFA出前授業とはー ●

AEFAの活動で最も大事にしているのは、「受益者は子供たち」であることです。アジアにおける住民参加型の学校建設および学習環境の整備とともに、日本の学校と現地の学校との交流を支援。双方の子供たちが交流を通して、世界を広げ、生きること、学ぶことへの素朴な「気づき」や「人への想い」をもたらすための活動も行っています。

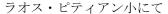
特に、出前授業では日本の子供たちに東南アジアの山岳少数民族の子供の暮らしや学校の様子を伝えることで、 日本での日常生活や学校で学べることに感謝する、さらには学ぶことで人の役に立つ人間になろうとする心を育て たいと願っています。

AEFA交流校だけでなく、東京都教育委員会の協力により、都内小中学校に出前授業の案内を配布。平成26年度は、都内を中心に全国106校のべ14,000人の小中学生に、アジアの様子を伝える授業を行うことができました。

◆出前授業のお申込みは、事務局までお問い合わせください。

また、一緒に取り組む熱血先生を募集しています!興味・関心のある学校や先生をご紹介ください。







活動の様子を発表する、久原小4年生

(2014年11月~2015年3月)

	板橋区立第三中学校(10日、12日)	
110	所沢市立美原中学校講演会(21日)	
11月	青梅市立新町中学校講演会(27日)	
	福島県田村市立芦沢・美山小学校(28日)	他3校
	岡山(倉敷)・島根(奥出雲)小学校週間4校(1~3日)
12月	渋谷区立松濤中学校 (11日)	
127	世田谷区経堂小学校道徳地区公開講座·PTA研修会	(13日)
	港区笄小学校(20日)	他2校
	小平市立第12小学校(13日)	
1月	八王子市立鹿島小学校(16日)	
	八王子市立宮上小学校PTA研修会(24日)	他9校
	神津島村立神津中学校道徳地区公開講座(7日)	
2月	港区立笄小学校(9日)	
	福島県南相馬市立小高中学校(10日)	他7校
3月	荒川区立赤土小学校(7日)	

子供たちのACTION! (大田区立久原小)

大田区立久原小学校に伺ったのは、1月17日 (土)でした。土曜日の授業参観日のため、4年生の子どもたち137人だけでなく、保護者も50人ほどおられました。授業でラオスのことを「知った」子供たちは、早速「行動」を起こします。 わずか3週間後のフェスティバル(2/8)で、来場者にラオスの子どもたちの現状を写真などを使ってしっかりと伝えるだけでなく、衣類集めへの協力呼びかけや、募金活動にまで発展。衣類は、ラオスの山岳地帯の子供たちのもとへ学校から船便で発送されました。子供達の熱意がこもった寄金は、「ワンコイン・スクールプロジェクト」に役立てます。素晴らしい取り組みに大きな心の支援をいただきました。 AEFA出前授業

講師陣紹介

∼豊富なメニューで∼

平成26年度の出前授業は、北海道から島根県まで合計116回に及び、AEFAスタッフだけでなく様々な方にご協力いただきながら行いました。

AEFA交流校の元校長先生、菊地修治先生(写真:右)や、木村廣先生(写真:左)はじめ、ボランティアさんなど多くの方に参加頂き、AEFAならではのオリジナル授業を行っています。

菊地先生(元仙台市広瀬小校長)は、ラオスの山岳少数民族の子供たちの生活を知る体験型ゲーム「森のスーパーマーケット」。「パチンコ(ゴムの力で的に玉を当てる道具)」を使い、教室内に吊るされたカエルやナマズをかたどった的に玉を当てて、「それが今晩のおかずで

す!ラオスの子供は、自分の力で生きているんだね。」と語りかけると、夢中になって興じていた子供達 の表情が変わります。

木村先生は、横浜市立保土ヶ谷中学校の元校長先生。タイやオーストラリアの日本人学校長の経験もあり、現在も幅広く国際理解教育を推進されています。写真、動画、クイズなども交えながら、ベトナムの山岳少数民族の子どもたちの生活を分かりやすく伝える授業のあと、ギター演奏で「友だちっていいな」という歌を皆で合唱。国際交流の楽しさも学べます。 それぞれの先生に個性があり、長い教職経験から編み出された授業は、とても魅力的です。

また、ボランティアさんが出前授業を手伝ってくださることもあります。東京都品川区立城南第二小学校6年生学級にて、2/21(土)に行われた出前授業は、学校公開日ということもあり、保護者の方々も多く

参観されました。この授業には、都内に在住・在勤のベトナム人ボランティアのダン・ヴァン・クオンさん(右下の写真:左端)も参加。4年前の 震災直後に、ベトナムやラオスの子供たちからのメッセージが寄せられた「復興鯉のぼり」を紹介、ベトナム語のメッセージを日本語に訳して 読みあげてくださいました。

「日本の地震と津波に負けず、がんばってください。応援しています。」(ベトナム南部チャビン省のフートゥーB小学校からのメッセージ)。6年生の皆さんは、じっと耳を傾けていました。なお、クオンさんは、交流作品の翻訳なども手伝ってくださっています。

ベトナムに3年半住んでいらしたことがある、ボランティアの伊藤宏美さん(右下の写真:真ん中)。出前授業の中で、子供たちが民族衣装に着替えるのを手伝ったり、授業の様子をブログで紹介したり。伊藤さんも交流作品の翻訳も手伝ってくださっています。

交流作品の翻訳はボランティアさんたちが手伝ってくださっています。メールのやりとり、事務 所で訳していただくなど、参加可能な方法で行っていただいています。右下の写真は、ある日 の事務所での翻訳風景。上述のクオンさん・伊藤さんと、大学生の滝沢舞さん(右端)。



出前授業を受けた中学校3年生の感想 (渋谷区立松濤中学校、女子生徒)

私は、今日のお話を聞いて自分達がどれだけ裕福な暮らしをし、それを無駄遣いしてきたかを考えさせられました。ラオスにはまだ戦争の爪痕が残り、いつ危険な目に遭うか分からない状況であるにも関わらず、私たちは目先の出来事に一喜一憂しているままで60年前の日本人に感謝できていないと思います。今、ラオスの子どもたちは将来の国のために一生懸命勉強していて、いつかは日本のように安全で裕福な暮らしができるようになるかもしれません。また、GDPの関係で日本の100円が数千円の価値になると聞き、最初は「物価が安いのか、いいな。」と思っていました。しかし、それはひどい考え方でした。日本人が自動販売機でジュースを買うお金を、今日必死になって稼いでいる人がいるということ、そして日本人がした支援に恩返しするためにそのお金を使った(東日本大震災への募金)ということに胸が痛みました。

ラオスは経済的に豊かでなくても心が豊かです。逆に日本人は経済的に豊かであるが故に心の豊かさを失いつつあると思いました。東日本大震災がそれを気づかせてくれたように思います。そして、今日聞いたことを糧に私ができることは勉強することだと思いました。



アジアの子どもたちが東日本大震災の ための募金活動をしてくれました。



◆ AEFA往来 2014.10~2015.3 ◆

10月 ●ラオスNGOスタッフ来日(17-25日) 長野市、武蔵村山市にて出前授業、支援者との集い

- ●会報19号発送(30日)
- 11月 ●ラオス出張(15-23日)
 - ・ナボーン中学校開校式(20日)
 - ●ベトナム出張(19-24日)
 - ・チュンハ小学校リエンソン分校開校式(19日)
 - ・タンホアB小学校交流会(21日)
 - ●ネパール出張(24-28日)
 - ・ソーシャルスタディ(25日)
 - ・カルバルリアン小中学校開校式(26日)
- 12月 ●京都ぞうさんプロジェクト
 - キックオフMTG (5日)
 - ●AEFA理事会(11日)

- 12月 ●タイ・ファイコン中学校生徒・教員来日 (14-22日)
 - ●いわき生徒会長サミット活動実践報告会(20日)
 - ●第9回AEFAフォーラム(26日)
- 2月 ●AEFA理事会(27日)
- 3月 ●ラオス出張(2/28-3/11)
 - ・フアイラー中学校開校式(1日)
 - ・ナサイプーカム小学校開校式(4日)
 - ・ホイヘー小、パークアイ小開校式(10日)
 - ●ベトナム出張(12-18日)
 - ・ヴァンラン小学校リエンフォン分校開校式(12日)
 - ・グエンフエ小開校式(13日)
 - ・チューオム小開校式(16日)
 - ●AEFA総会(19日)
 - ●ちくぬいプロジェクト報告会(31日)





日ラオス外交関係樹立60周年記念事業 ぞうさんのふるさと ラオスに学校を贈ろう

2015年は、ラオスと日本の国交樹立60周年です。両国の友好関係も「還暦」を迎えました。

今年度、AEFAのプロジェクトでラオスに建設・竣工する学校は、「60周年記念事業」として外務省より認定されます。

昨秋、ラオスから京都に4頭のアジアゾウの子象が贈られました。 現在、アジアゾウはワシントン条約で研究目的以外の輸出入が禁止されており、今回の贈り物は大変貴重なものです。AEFAでは、お返しに、日本の子供・学生たちが中心となって心と力をあわせ、「ぞうさんのふるさと ラオスに学校を贈ろう」プロジェクトを推進しています。 ぞうさんを通じて、日本の子供たちが学べることの意味を考えたり、アジアの子供たちに思いをはせたり、世界を広げたり、友好を深めるきっかけになれば・・・と願っています。

現在、関西の学生団体SIVIO、I-RISがこのプロジェクトに賛同。 ラオス南部の幼稚園と小学校を支援する活動を協働しています。

◆マークナオ小学校建設への 参加・ご協力をお待ちしています◆



不足問題点

学校の教室

教材

教員

車で約3時間。 人口601人84世帯 112家族、少数民族イン族の村です。「セドン 川」を超えるため、雨季

南部サラワン県の第

この都市パクセーから

にはアクセスが途絶することも。村人は、主に陸稲や野菜の栽培、森や川での食糧採集で自給自足の生活を

送っています。



現マークナオ小学校



AEFA初出展!

ラオスフェスティバル2015

5/23 (sat) &24 (sun)

場所:代々木公園イベント広場

時間:10:00~19:00

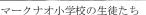
入場無料 雨天決行!

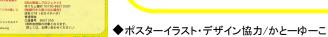
LAOS PETTIVAL

ラオスフェスティバル

皆様の来場をお待ちしています!







認定NPO法人 アジア教育友好協会 AEFA(アエファ)

Asian Education and Friendship Association

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03-6426-0720 FAX 03-6426-0721 Email: asia@nippon-aefa.org

URL:http://www.nippon-aefa.org

京の恩返し、 ぞうさんのふるさと

ラオスに

学校を贈るうる

